

(1) 単元名： POWER-UP WRITING2 日記①

(2) 本時の目標：自分のしたことについて3文以上書くことができる。

☆本資料に出てくる子どもの名前は全て仮名である。



学校に入るとすぐに目についたのが、体育館前の『シチマンタル魂』の石碑と、自転車の並びであった。H24年度、島袋校長の赴任をきっかけに、佐藤学先生提唱の「学びの共同体」の理念による学校経営と、『対話』と『協同』による授業経営に教師達の挑戦が始まった。

名護市の東江中同様市内で2校目の「学びの学校」への挑戦である。一人残らずすべての生徒のための学校づくりへの教師達の奮闘を期待する。



2校時 1年1組 英語 T 先生

単元：POWER-UP WRITING2 日記①

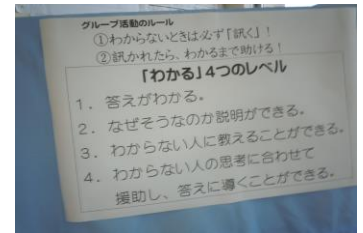
初任者である。最近の初任者は、補充経験や臨時の経験が豊富で、採用試験に合格した頃には、ある程度の授業経験があり、授業経営がすでに形作られている教師をよく見かける。T先生の授業力にもそう感じた。

写真①、本時の学習課題の説明である。実に丁寧な説明、しかも繰り返される。しかし生徒達の眼はしっかり教師に向けられている写真②。教師と生徒の関係がいいと沈黙の目線のやり取りがあるが、まさにこれである。

教師の説明がくどい。まじめな教師ほど、課題や解答の説明に時間をかけ言葉が多くなる。課題をしっかり把握できないときも、グループにした時に互いで課題を確かめるよう進めたい。特に解答の説明や解説がくどいと生徒は互いの学びをあきらめてしまうときがある。なぜか？どうせ「最後には先生がちゃんと説明してくれるから。」である。つまり仲間で何とか解決しようと言う姿勢から、教師の解答を待つ生徒になる。だから説明や解説はほどほどにである。生徒互いの学び合いの力を信じよう。きっとできるようになる。



写真①



【共通実践の意義】

教室の前面に掲げられた学びの作法らしきものがある。大切にしたいことは、すべての教師が実践しているか？である。改革は難しい、校内の1部の教師だけ、やりたい教師だけが実践しているのではつらいものになる。最後にその弊害を受けるのは生徒であることは間違いない。「みんなでやる」どの教室でもやるを大切にしたい。同僚性の構築につながる。



写真②

10:55【共有課題にグループで取り組む】

課題がグループにおろされた。生徒の顔がゆるんだ。あちらこちらで互いの学び合いが発生する。聞き合うが違和感なく進められる。どちらかと言うとどのグループでも女の子がファシリテーター的ががんばっていた。



笑顔はうれしい！教師にとっても、例えばこの授業のわが子の姿を見ている保護者が居たとしても、「分かる・分からない」より楽しく授業に参加している我が子を見るのが一番の安心につながる。生徒も、教師も、保護者も安心できるのは、「分からない」事にも笑顔で挑戦できているか？しかも仲間と寄り添ってである。この教室の空気がとってもいい、DVDや写真で感じる事のできない「支え合う空気」が確実にある。



【教師の役割】



グループに課題をおろしてすぐ教師がグループ間を歩きながら個別指導に入る。生徒の疑問が教師に向けられる。当たり前と言えば当たりの授業風景であるが、「学び合い」では教師のこの行為は、互いの依存を切ってしまうことになる。グループ活動中の教師の役割は学びに入れたい子への「ケア」である。

【教師の居方・ケア】



この写真③④をどう見るか。丁寧にグループを観察し、子どもの疑問や困り感に丁寧に対応するまじめで優しい先生？ 確かにそうである。しかし「学び合う」教室では、教室の仲間に依存できるようになることも大きなテーマである。あまりにも教師が関わりすぎると、生徒の仲間への依存の機会を取り上げてしまうことになる。実際、教師がグループの近くに来るのを持っている個人やグループが多々あった。教師に依存するのではなく、「自分達で解決に向かう姿勢」をつくりたい。教師は全体が見渡せる位置で、学びに入れたいケアを要する子の観察を心がけたい。この教室にケアを要する子が2名は確認できた。

10:22

【支えあう仲間①】



幸助は途中何度も机に伏せる仕草を見せていた(写真⑤奥の男子)。俺は困っているのサインである。しかし、教師は、積極的に手を挙げて教師に依存する個人やグループの対応で気づかない。教師に余裕がなくほんとにケアが必要な子が見落とされていた。「一人残らずすべて・・・」にこだわりたい。

しかし授業も終盤に入って、向かいのもねさんの手が差しのべられる。写真⑥、もねさんの説明にしっかりと聴き入る幸助の眼を大切にしたい。ぼくのことには気づかなかった教師には向けられない眼である。「人は、自分を支えてもらった人にしか心を開かない。」さらに、支えられることによって「分かった」を経験した子は決してその仲間を裏切ることはしない。

教師の居方を大切にしたい、グループ活動中の教師は全体を見渡し、ケアの必要な生徒に関わることを最優先にしたい。

【支え合う仲間②】



治斗さんは仲間に依存できず、グループ活動中テキストと辞書とじっとにらめっこを繰り返していた。そこへ綾奈さんの手が差しのべられた。綾奈さんが辞書引きをお願いし治斗さんが探し、二人で確かめているところである。この美しいしっとりした風景が「学び合い」の・・・である。

このシーンは学びに入れたい治斗さんを仲間が対話に巻き込んだ写真である。きっと、二人の中で何らかの心の動きがあったと思う。綾奈さんの行為が意図的なものであるならば・・・「すばらしい〜」である。

10:34 【授業終末】

教師が発表者を募るが簡単に反応しない。

▲「発表」と「表現の共有」ちがいは？



教師の「発表お願いします。」から一気に教室の空気が重苦しくなる。「誰かお願い手を挙げて〜」教師の心の叫びが聞こえるようなシーンだ。重苦しい空気を振り切って正樹が手を挙げた。(進められて妥協したのか、自からなのかが確認できませんでした。)

みんなしっかりと聞いている。「がんばれ〜」の声が聞こえる。がんばる仲間を支えたい教室の息づかひをひしひしと感じる。すばらしい一言である。発表を終えた正樹も、恥ずかしそうな笑顔ではあるがどことなく達成感に満ちている。確信できる・この教室は「学び合う・支え合う」ができる。

T先生ありがとうございました。私にとって初めての羽地中学校での授業視察でした。島袋校長先生が「学び」の学校づくりを実践しているとのことでした。なかなか訪問の機会をつくれず今日にいたってました。それから、2年国語S先生、2年理科N先生の授業を拝見させていただきました、心より感謝します。

1年英語の教室はほんとにすばらしい仲間達です。「聴き合う」「支え合う」空気を確実に感じました。今後も、1年1組の子ども達が他の先生方とはどうなのか？T先生と他のクラスはどうなのか？を校内研修や仲間の教師同士で検証していければ「学び合う学びの教室」創りを追求できるのではないかと思います。

国頭学びの会ゆい